



康心会汐見台病院

# 産科だより

令和3年

◆ 放置していませんか？

「そういえば、数年前に子宮筋腫があるって言われたことあるな」

「卵巣が少し大きいって言われた事がある」

「動悸やほてりがあるけど、更年期だから仕方ない」

「生理の量が増えてきたかな？」

「たまに不正出血があるけれど、痛くもないし、大丈夫かな」

などなど・・・。婦人科疾患を放置している方

いませんか？ご存知の方も多いと思いますが、子宮筋腫や卵巣のう腫は良性腫瘍です。それを持ちながら生活している方は多くいると思います。良性の腫瘍、ましてや自覚症状がなければ、病院に来る必要性をあまり感じないかもしれませんが、しかし、定期的にチェックしていないと、知らないうちに大きくなっていることもありま

す。実際に、別の疾患で当科に入院した患者様でお話を聞いてみると、実は数年前から性器出血があり、本人は生理だと思っていたので異常と気が付かず、毎日ナプキンを使用していた方がいました。受診を促したところ婦人科疾患が見つかり、手術する方向になりました。

そこで、今回は一度は聞いたことがあると思

われる子宮筋腫についてお話しさせていただきます。

子宮筋腫とは、子宮に発生する良性腫瘍で、30歳以上の女性の20〜30%、極小なものを含めると75%にみられる疾患です。多くは無症状で経過し、妊婦健診やがん検診などで発見される事が多いです。

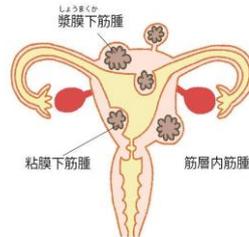
子宮筋腫は3つに分類されます。

① 漿膜下（しようまくか）筋腫

② 筋層内筋腫

③ 粘膜下筋腫

基本は無症状ですが、筋腫が大きくなると、痛みや不正出血、過多月経（生理の出血量が多い）、強い生理痛などが現れます。



①は子宮の外側にできる筋腫です。子宮の外側になるため、隣接する膀胱が圧迫され、頻尿になることがあります。ここにできる筋腫は有茎性（お花の茎があるような状態）であることもあり、知らない間にその茎の部分がねじれて突然激痛が襲うこともあります。茎捻転（けいねんてん）という状態です。痛みが非常に強く緊急手術になることもあります。

②は子宮の筋肉の中にできるもので、筋腫の中では一番多い発生場所です。小さいものから大きいものまで、多発しやすいのが特徴です。

③は子宮内膜の直下にできる筋腫です。3つの中では一番頻度としては低い種類になります

が、ひどい生理痛や過多月経などの症状が最も強いです。これは受精卵が着床する子宮内膜に近い筋腫になりますので、受精卵の着床の邪魔となり、不妊症の原因にもなります。また筋腫分娩と言つて、大きくなった筋腫が子宮内から膣の中に出てしまうこともあります。それが何かわからず、なにか出ましたと言つて、受診する方もいらっしゃいます。

無症状でも、子宮筋腫が大きくなり、今後症状がでることもあります。過多月経に気が付かず（生理期間中ほとんど夜用ナプキン使っていないませんか？）、知らない間に貧血が進行していることもあります。貧血になると、ちょっとした行動で息切れしたり、動悸、耳鳴り、頭痛、めまいなどが現れます。過去に一度でも子宮筋腫を指摘された事がある方、婦人科の検診を受けた事がない方、ぜひ一度チェックしにいらしてください。ご不明な点がございましたらお電話でお気軽にご相談ください。

## ◆ 今月の赤ちゃん

今回の赤ちゃんはまだお腹中です。ここまで全身と羊膜、へその緒がきれいに写ることは稀です。まだ性別もわかりません。この頃は神経系（脳や脊髄など）が発達し始める時期。胎動はまだ感じられませんが、エコーではもぞもぞと動く姿がわかると思います。頭の方からおしりまで27ミと小さいです。これからどんどん大きくなって、元気に産まれてきてね。

